

課題名：スマートフラワー導入によるスプレーギク産地の育成

所属名：沖永良部事務所農業普及課

<活動事例の要旨>

スプレーギクにおいて、輸送コストの削減を目的にスマートフラワーの導入を実施した。これにより、従来比 1.2 倍のコンテナ積載が可能となり、1.2 円/本の運賃削減ができた。また、輸送時の品質低下を防ぐため、鮮度保持資材を導入した。出荷資材代の経費については、約 1 割削減することができた。10a 当たりの出荷資材代、運賃については、約 6 万円削減することができた。また、スマートフラワーフェアやシンポジウムの開催を行うことで認知を高め、スマートフラワーによる全量出荷に繋がった。

1 活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由

沖永良部島は、鹿児島県内でも有数の切り花生産地である。しかし、離島という地理的特性から、本土の主要消費地（関東・関西）までの輸送距離が長く、輸送コストの高さが大きな課題となっている。

コスト面では、生産・出荷資材価格の上昇に加え、燃油価格の高騰や「2024 年問題」による運賃上昇が生産者の負担となっている。

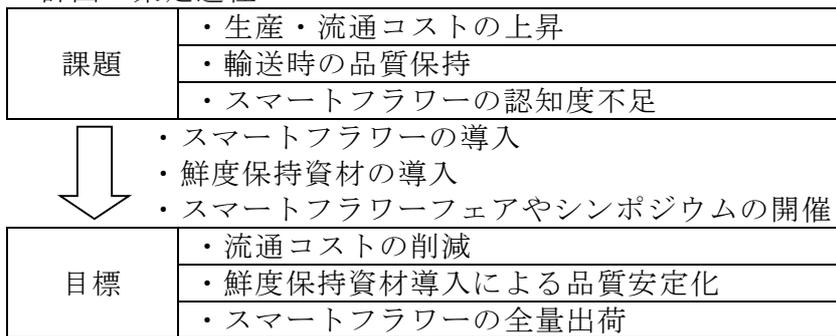
品質面では、台風や季節風による船の欠航・抜港により流通が不安定になり、市場に到着するまでに日数を要することが課題である。

こうした状況の中、生産者からはコスト上昇を背景に「少しでもコスト削減ができないか」という声が上がっていた。また、実需者からは、廃棄ごみ削減の観点からスマートフラワーへの対応を求める要望が出されており、両者の課題を結び付ける取組が必要とされていた。

そこで、沖永良部島の主要品目であるスプレーギクを対象に、流通コストの削減、鮮度保持資材導入による品質安定化、スマートフラワーの全量出荷を目標として設定した。

併せて、「スプレーギクにおけるスマートフラワーのコスト削減と品質保持」をテーマに調査研究を実施し、ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業を活用して、切り花長や脱葉範囲、出荷箱、鮮度保持シートについて検討を行った。

(2) 計画の策定過程



2 普及指導活動の内容

(1) 活動の経過

●令和3年度

- ・スマートフラワー出荷を試験的に実施し、導入の可能性について検討を行った。
- ・ホームセンター（株）カインズの約 60 店舗でスマートフラワーフェアを実施した。

●令和4年度

- ・スマートフラワーの全量出荷を開始し、切り花長や脱葉範囲の検討、出荷箱の検討を行った。
- ・スマートフラワーに対する認知度拡大及び機運醸成を図るためフラワーシンポジウムの開催を行った。

●令和5年度

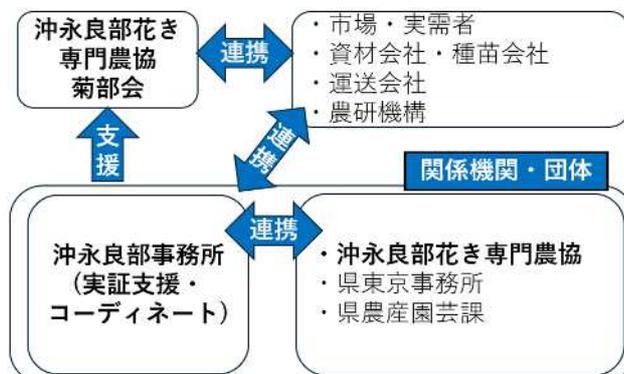
・スマートフラワーに移行しても従来と変わらない品質の切り花を供給するために鮮度保持資材を用いた輸送実証を行った。効果的かつ実用的な資材を選定したが、コストの課題が明らかになった。

●令和6年度

・鮮度保持資材のコスト削減を目指し、安価な鮮度保持資材を選定した。

(2) 指導・支援の体制

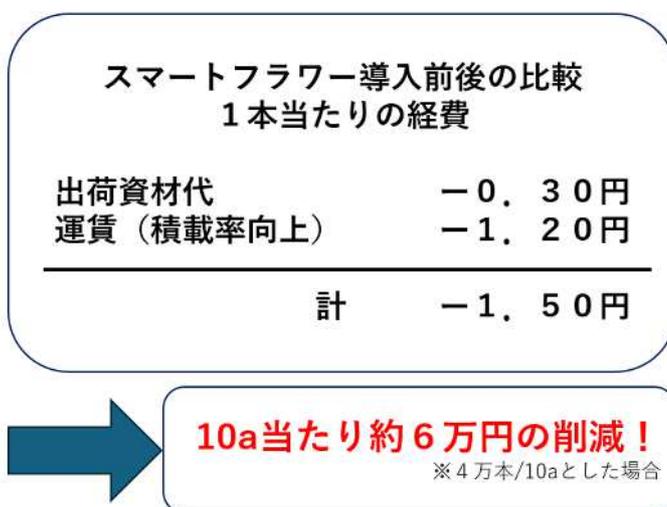
- ・沖永良部事務所：実証支援，フェアやシンポジウムのコーディネート
- ・沖永良部花き専門農協：規格の検討，導入
- ・市場,実需者：切り花の品質評価
- ・資材会社：鮮度保持試験
- ・県東京事務所：フェアの協力
- ・県農産園芸課：事業のとりまとめ



3 普及指導活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因

スマートフラワー規格の導入により、従来比で 1.2 倍のコンテナ積載が可能となり、輸送コストの削減ができた。また、輸送時の品質については、鮮度保持シートの導入により、品質の安定化につながった。鮮度保持資材については、6種類の資材を比較し、より安価かつ同程度の効果を持つ資材を選定した。出荷資材代については、約 1 割削減でき、10a 当たりの経費については、約 6 万円削減することができた。また、フェアやシンポジウムの開催を行うことでスマートフラワーの認知度拡大を行い、スマートフラワーの全量出荷に繋がった。



(2) 活動に対する生産者・農家の評価

輸送コストや資材コストが高騰する中、今回の取り組みにより経費を削減できたことについて、生産者からは高い評価を得ている。加えて、鮮度保持資材の導入により切り花の品質が安定し、信頼性の高い出荷が可能となった点も高い評価を受けている。

また、実需者からもスマートフラワーの取り組みが認知され、ゴミの削減に繋がり好評である。

(3) 地域農業振興への貢献

全国初のスマートフラワー規格の導入事例であり、全国的に注目されている。今後の切り花輸送の新たなモデルケースとして、花き業界をリードしている。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 今後の課題

- ア スマートフラワーに対応した栽培技術の検討
短茎でもボリュームの出やすい品種選定や電照期間の短縮ができないか検討を行う。
- イ 他品目への出荷方法改善の検討
トルコギキョウ、クルクマについて出荷方法の改善ができないか検討を行う。

(2) 今後の活用に向けて

生産・流通コストの削減はどの花き産地においても共通の課題であるため、スマートフラワー規格を検討することでコスト削減になり、産地の維持・発展につながる事が期待される。